

災害ボランティアセンター運営者研修会 ～災害時にも支え合える地域を目指して～



1月29日、30日（2日間）、災害ボランティアセンター運営者研修会を開催しました。さつま町役場職員や北薩地区の社会福祉協議会職員、民生委員など約40名が参加し、災害ボランティアセンターの基礎知識や被災者の困りごと把握や寄り添う気持ちの重要性について理解を深めました。

1日目は、災害ボランティアセンターについての基礎知識（しくみ）や被災者の置かれている状況の理解について学びました。

昼食には、非常用パンの缶詰めやお湯や水だけで作れるごはんの非常食を試食しました。「今の非常食はおいしい。」と好評でした。



2日目は、ハイゼックスを使った炊き出し訓練後、実際の災害ボランティアセンターの運営をデモンストレーション（実演）を行うことで全体的な流れを学びました。その上で、災害ボランティアを受け入れることになった場合の役割・班の設置レイアウトについてグループ検討を行いました。



災害ボランティアセンターとは

災害ボランティアセンターとは、被災者の生活再建のために、ボランティアの派遣・調整を行う機関。ボランティアの受付・広報・オリエンテーション・ニーズ把握・資機材管理やボランティアの送迎などを行います。それぞれの役割にて班編成を行い運営することで、スムーズにボランティア活動が行えるよう支援を行います。さつま町においても「平成18年北薩豪雨災害」の際には、宮之城ひまわり館に災害ボランティアセンターが設置され、県内外からのボランティアによる復興支援が行われました。